武蔵野

学校だより NO.9
令和８年　１月号
昭島市立武蔵野小学校
校長　大河原　博

武蔵野小 HP

◆◆◆「ウェルビーイング」の向上を目指して◆◆◆

新年を迎え、武蔵野小も子供たちの元気な声とともに新学期が始まりました。皆様はどのような新年を迎えられたでしょうか。本年もよろしくお願いいたします。

さて、昨今「ウェルビーイング」という言葉が注目されています。直訳すれば「よい状態」を指します。OECD（経済協力開発機構）の「ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤）」では、個人と社会のウェルビーイング（心身の健康と幸福な生活）が「私たちの望む未来」の共通目的地とされ、教育を通じた育成の重要性が世界的に認識されています。

日本でも、文部科学省の「第４期教育振興基本計画」（令和５～９年度）において、これからの教育目標の柱の一つに「**ウェルビーイングの向上**」が掲げられました。これは**体の健康**だけでなく、**心の健康**や**人とのつながりにおける良好な状態**、さらには**将来にわたる持続的な幸福**を含む概念です。

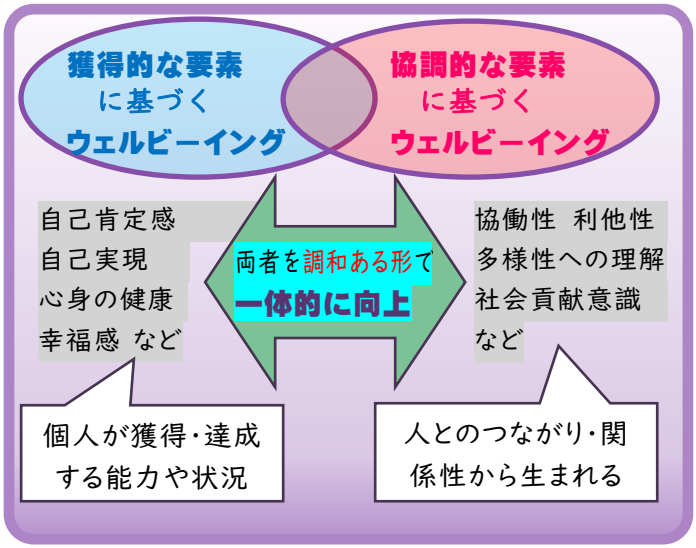
ユニセフ「レポートカード 19」（2025 年５月報告）
【調査結果の主なポイント】43 カ国で実施
〇総合順位　　：14 位（前回 20 位からは改善）
〇身体的健康　：１位（肥満率、死亡率などの指標で高評価・前回も１位）
〇精神的幸福度：32 位（生活満足度、自殺率の指標で低評価・前回は 38 カ国中37位）＊
【日本の子どもの特徴】
・スキルにおいて、学力は世界トップレベルを維持する一方で、新しい友達を作る自信のなさなどがある。
・高い学力と低い学習意欲のギャップ（PISA 調査など学力は高いが、学習への興味・関心は低い。）
・学校への所属意識は高いが、家族からのサポートが少ないと感じる子どもが多い。
＊精神的幸福度の低さの背景：「自分はひとりぼっちだと感じる」「失敗を恐れる」といった傾向

子供のウェルビーイングに関する国際調査（ユニセフ「レポートカード」等）によると、日本の子供は身体的健康や経済面でトップクラスである一方、精神的幸福度が低く、心の面での支援が大きな課題となっています。パンデミック以降、先進国全体で子供の学力や心身の健康に低下が見られましたが、日本における身体的健康と精神的幸福度の乖離は、コロナ禍以前からの根深い課題です。

ウェルビーイングには大きく二つの要素があります。一つは個人の能力や達成に基づく**「獲得的な要素」**、もう一つは周囲との関係性に基づく**「協調的な要素」**です。欧米では前者が幸福感に影響しやすいのに対し、日本では後者の「協調的な要素」が大きく影響するのが特徴です。子供たちを見ても、自分一人ではなく、友達や家族、クラス全員が「よい状態」であってこそ、真の幸福を感じられるのではないでしょうか。

世界や日本全体が目指す姿がある一方で、各学校にも独自のウェルビーイングの姿があります。学校には、子供だけでなく教職員や地域社会を含む多様な個人が、関わりを通じて幸せや生きがいを感じられる場づくりが求められています。

今年の武蔵野小は、全教育活動を通じて子供たちの**ウェルビーイング向上に取り組みます**。「子供たちの幸せ」という価値観を学校・家庭・地域で共有し、豊かな教育活動を実現したいと考えております。
本年もよろしくお願いいたします。



【１月の生活目標：すすんで仕事をしよう】